HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	職場・業務紹介 生物資源科学科園芸学講座
Author(s)	笠井, 登
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 1, 45-45
Issue Date	1994-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35260
Type	departmental bulletin paper
File Information	1_p45.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

生物資源学科　園芸学講座　笠井　登
（技術部　作物・分析系　共同利用班）

◆職場紹介

私は1969年農学部果樹蔬菜園芸学講座(現在園芸学講座)に採用になり、附属農場園芸第１部に６年間兼務し、現在に至っています。

園芸学講座は、1907年に新設されてから本年で創立87年を迎え、この間に475名の卒業生と53名の農業改良普及員大学研修生を社会に送り出しました。また、300余編の研究業績と31の刊行著書があります。

《スタッフと研究について》

私の講座は、毎週月曜午前の仕事打ち合わせ会議から１週間が始まります。

現在の講座スタッフは教授、助手、事務官、技官です。学生は、３年・４年生共に６名、研究生４名、ＤＣ４名（外国人留学生２名）、ＭＣ４名の24名となっております。

研究テーマは果樹と蔬菜を対象とした組織培養による栄養繁殖、有用遺伝資源の凍結保存、細胞・組織培養法による新品種の育成、花成・結実の機構などに関する基本的研究が行われています。近年はバイオ関連の研究が主流となっております。

現在てがけている主な材料は、果樹として、リンゴ、ナシ、ブドウ、のほかブルーベリー、ハスカップ、マタタビ、サルナシなど、蔬菜では、アスパラガス、ホウレンソウ、ネギのほか、山菜であるギョウジャニンニク、ハマボウフ、コシャク等である。

◆仕事内容

私が今まで行って来た仕事について紹介します。果実の呼吸、貯蔵と品質、収穫適期に関する研究で炭酸ガスの測定及びガスクロを用いてのエチレン測定。全国的にも早く組織培養法を導入。園芸作物の優良品種系統の繁殖及びウイルスフリー個体の作出等を行って来ました。私は1973年からこの研究に携わってきました。今まで扱ってきた植物としては、アスパラガス、食用ユリ、ニンニク、ギョウジャニンニク、イチゴ、ヤマノイモ、マタタビ、サルナシ、などでである。他には、パラフィン切片による顕微鏡による組織観察。温室・圃場での実験植物の系統維持、栽培、管理。各種分析・測定機器の保守等です。

今までに北海道園芸研究談話会・農学部紀要等に連名での発表は21編になりました。

◆施設及び設備

園芸学講座の関連施設として、附属農場に果樹・蔬菜園として３ha、余市果樹園７haがあり、他に温室があります。－２℃から設定可能な大型冷蔵庫４部屋と組織培養関連設備としてクリーンルーム（培養室）、クリーンベンチ３台、他に分析機器、測定機器などとなっています。

◆今後の方向

ひきつづき園芸作物の組織培養、パラフィン及び樹脂切片法を用いた植物の形態と胚発生様式について顕微鏡及び電子顕微鏡で観察したいと思っています。